

平成23年度業務実績報告(自己評価)の委員意見一覧

記載内容の説明について

この資料は、法人から提出された「資料5 公立大学法人宮城大学業務実績報告書(平成23年度)」について、評価委員会の評価に資するよう、事務局で整理したものです。「資料5」の「平成23年度計画」の欄で、一連番号ごとに自己評価されているものを「中期目標」の単位で整理しております。

評価項目	計					+の割合	の割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	(参考) 評定実績							
	0	0	182	31	213					H21	H22						
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	182	31	213	100.0%	14.6%										
1 教育に関する目標を達成するための措置																	
(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置																	
1	イ 学士課程					0	0	9	3	12	100.0%	25.0%	A	[評価]	[委員意見]	A	A
	(イ) 共通教育 No.1~2							2									
	(ロ) 専門教育																
	〔看護学部〕 No.3~7							4		1							
	〔事業構想学部〕 No.8							1									
	〔食産業学部〕 No.9~12							2		2							
2	ロ 大学院課程					0	0	7	1	8	100.0%	12.5%	A	[評価]	[委員意見]	S	C
	〔看護学研究科〕 No.13~14							2									
	〔事業構想学研究科〕 No.15~17							3									
	〔食産業学研究科〕 No.18~20							2		1							

「資料5 業務実績報告書」の中期目標の項目ごとに整理し直しました。

資料5の細目の一連番号を No.1~328で右に記載

この資料における
通し番号

この単位で項目別評価
をお願いします。

法人の自己評価を集計しました。

評定	法人の自己評価(4段階評定)
	年度計画を大幅に上回って実施している (特筆すべき優れた実績・成果がある)
	年度計画を予定どおり実施している (達成度がおおむね90%以上)
	年度計画を十分に実施していない (達成度がおおむね60%以上90%未満)
	年度計画をほとんど実施していない (達成度がおおむね60%未満)

記載されている数値は、「資料5」の「23年度計画」欄の一連番号ごとに法人が自己評価した評定の集計値

過去2年の評定結果を記載しています。評価の参考としてください。

法人の自己評価に対して「評価欄」に「S~D」の評価を、「委員意見欄」に意見を記載してください。その際「仮評価」をご参考ください。

「資料3 評価の実施要領」第4「2項目別評価」の「評定の基準」に基づき機械的に「S~C」と仮評価しています。

評定	評価委員会の項目別評価(5段階評定)評定の基準
S	特筆すべき進捗状況にある (委員会が特に認める場合)
A	年度計画を順調に実施している (自己評価の評定がすべて「」又は「」)
B	年度計画をおおむね順調に実施している (自己評価の評定で「」又は「」がおおむね90%以上)
C	年度計画の実施にやや遅れがある (自己評価の評定で「」又は「」がおおむね90%未満)
D	年度計画の実施が遅れており、重大な改善事項がある (委員会が特に認める場合)

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目					計	+の割合	の割合	仮評価
第1 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置	0	0	182	31	213	100.0%	14.6%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見

(参考) 評定実績	
H21	H22

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育の成果に関する目標を達成するための措置

1	イ 学士課程	0	0	9	3	12	100.0%	25.0%	A
	(イ) 共通教育 No.1~2			2					
	(ロ) 専門教育								
	〔看護学部〕 No.3~7			4	1				
	〔事業構想学部〕 No.8			1					
	〔食産業学部〕 No.9~12			2	2				

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 各項目とも年度目標を達成していると判断する。/ 食産業学部の産業実習では全員がインターンシップ研修に参加し、さらに優秀なグループが大学祭時に高校生や一般向けにポスター発表していることは大変好ましい。 藤崎委員:A 教育に関する一定の成果が認められる。 Mウィリアムズ委員:A

A	A
---	---

2	ロ 大学院課程	0	0	7	1	8	100.0%	12.5%	A
	〔看護学研究科〕 No.13~14			2					
	〔事業構想学研究科〕 No.15~17			3					
	〔食産業学研究科〕 No.18~20			2	1				

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 大学院カリキュラムの充実に向けて、順調に進展しているものと判断する。/ 食産業学研究科博士課程新設を取り下げざるを得なかったことは残念である。今年度は万全な体制で申請願いたい。 藤崎委員:A 同上。の割合が上がるよう今後の努力を要する。 Mウィリアムズ委員:A

S	C
---	---

(2) 教育の内容等に関する目標を達成するための措置

イ 入学者受入方針・入学者選抜

3	(イ) 学士課程 No.21~27			6	1	7	100.0%	14.3%	A
---	-------------------	--	--	---	---	---	--------	-------	---

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 教育に関する目標に謳われているように、教育の活性化のためにも、県外及び全国からの入学者の確保に努める必要がある。 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A アドミッションポリシーの周知に向けた取り組みを積極的に行っていることは評価できる。 藤崎委員:A 入学者の意見を参考にする機能の充実を図りたい。 Mウィリアムズ委員:A 資料では、入試が「社会のニーズ」を踏まえた適切なものとなっているか確認することは必要だと書いてありますが、実際問題として、それが何を意味するかは明らかではありません。「社会のニーズ」がどのように評価され対応されるかの、さらにいくつかの詳細な検討が有用となるでしょう。

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目				計	+の割合	の割合	仮評価	
4 (Ⅱ) 大学院課程 No.28 ~ 31			3	1	4	100.0%	25.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
[評価] A	[委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 大学院独自のパンフレットを作成し、広く広報に努めていることは評価できる。 藤崎委員:A 入学者の意見を参考にする機能の充実を図りたい。 Mウィリアムズ委員:A

(参考) 評定実績	
H21	H22
A	A

□ 教育課程

5 (Ⅰ) 学士課程			27	1	28	100.0%	3.6%	A
a 共通教育 No.32 ~ 36			5		5			
b 専門教育								
〔看護学部〕 No.37 ~ 42			6		6			
〔事業構想学部〕 No.43 ~ 47			5		5			
〔食産業学部〕 No.48 ~ 51			3	1	4			
c 学習機会の拡大 No.52 ~ 54			3		3			
d 国家試験・資格 No.55 ~ 59			5		5			

[評価] A	[委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 学都仙台単位互換ネットワークの役割、教育効果などについて検証し、より魅力的な仕組みの構築に向けた工夫をする必要がある。現時点でのやり方は中途半端な印象を否めない。 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 3学部とも、英語、韓国語、中国語などの語学教育に力を入れていることは、望ましい。/国際インターンシップを開始、もしくは開発しており、今後の発展に期待したい。/保険師や看護師の国家試験に対する指導を行い、高い合格率を誇っていることは評価できる。 藤崎委員:A インターンシップの充実など他大学との差別化に期待する。 Mウィリアムズ委員:A 資料では、優れた「teaching(教育)」について、多くの特筆すべき点が見られますが、「learning(学習)」過程においては少なく感じます。高等教育では、教員の「teaching(教育)」から学生の(その過程で教員の手助けを伴った)「learning(学習)」へ移行させることが重要です。これは、自律した学習機会などにもっと多く焦点を当てることで、より明確にカリキュラムに反映できるかもしれません。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

A	A
---	---

6 (Ⅱ) 大学院課程〔21〕 No.60 ~ 72			11	2	13	100.0%	15.4%	A
----------------------------	--	--	----	---	----	--------	-------	---

[評価] A	[委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 藤崎委員:A 花輪委員:A 68は社会ニーズに応じて在学期間短縮ということで良いと思う。 各項目とも順調に進展していると判断する。/サテライトキャンパスの夜間講義に多くの受講生を得ていることは評価できる。 Mウィリアムズ委員:A
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目				計	+の割合	の割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	(参考) 評定実績		
									H21	H22	
八 教育方法											
7 (I) 学士課程			24	5	29	100.0%	17.2%	A	[評価] [委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:S 項目数が多いので、全体としてはAになるかもしれないが、74は良い成果と思う。 橋本委員:A 花輪委員:A 共通教育で様々な工夫や取り組みを行っていることは高く評価できる。ノ3学部とも地域連携の授業科目を開発していることは評価できる。ノインターンシップを取り入れていることは、人材養成の観点から好ましい。 藤崎委員:A 学部によってバラツキがあるのが気になる。 Mウィリアムズ委員:A 研究と教育の間の関係は完全に明らかではありません。また、しばしばそれらが教員の契約における2つの無関係な様相であるように見えます。「Research-led teaching(研究成果による啓発的な教育)」は重要ですが、それは教員が自身の現在の研究について教えることだけでなく、自身の研究過程や研究への熱意を学生が理解することも重要です。	A	A
a 共通教育 No.73～78			5	1	6						
b 専門教育											
[看護学部] No.79～89			10	1	11						
[事業構想学部] No.90～91			1	1	2						
[食産業学部] No.92～101			8	2	10						
8 (II) 大学院課程			12	2	14	100.0%	14.3%	A	[評価] [委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 「教育費」を活用して学生の研究発表の機会を多く作っていることは評価できる。ノ食産業学研究科では、積極的に県や企業の研究所と共同して学生を教育していることは評価できる。 藤崎委員:A 学部によってバラツキがあるのが気になる。 Mウィリアムズ委員:A	A	A
[看護学研究科] No.102～104			3		3						
[事業構想学研究科(博士前期課程)] No.105～107			3		3						
[事業構想学研究科(博士後期課程)] No.108～111			4		4						
[食産業学研究科] No.112～115			2	2	4						
二 成績評価											
9 (I) 学士課程 No.116～117			2		2	100.0%	0.0%	A	[評価] [委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 成績分布をチェックしていることは評価できる。また、成績に対して学生から反論等の機会を与えていることは評価できる。 藤崎委員:A 母数が少ない。 Mウィリアムズ委員:A	A	A
10 (II) 大学院課程 No.118～119			2		2	100.0%	0.0%	A	[評価] [委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 成績分布をチェックしていることは評価できる。 藤崎委員:A 母数が少ない。 Mウィリアムズ委員:A	A	A

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目					計	+の割合	の割合	仮評価
------	--	--	--	--	---	------	-----	-----

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
--------------------	--

(参考) 評定実績	
H21	H22

(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

11	イ 適正な教員配置 No.120～127			8	8	100.0%	0.0%	A	
12	ロ 教育及び教員の質の向上			8	0	8	100.0%	0.0%	A
	(イ) 教員評価 No.128			1	1				
	(ロ) 授業評価 No.129			1	1				
	(ハ) 教員研修 No.130～135			6	6				

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 教員選考を原則公募制とし、模擬授業を課していることは評価できる。 藤崎委員:A 学生へのヒアリングをすべきである。 Mウィリアムズ委員:A
A:7	
[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A ベストティーチャ 賞を設けて、授業紹介を行っていることは、ユニークな取り組みであり、評価できる。 藤崎委員:A 授業評価は回りづらいのでは？要検討。 Mウィリアムズ委員:A 「peer observation(仲間による授業観察)」やクラス評価の役割は何ですか？また、それらをどのようにカリキュラム改革へ落とし込みますか？学部評価プロセスへは？
A:7	

C	A
B	A
C	A

13	ハ 教育環境の整備 No.136～143			2	5	7	100.0%	71.4%	S
				<small>評定不能のため 母数に含めず(No136)</small>					

[評価]	[委員意見]
S	猪股委員:S 関谷委員:S 学生満足度調査の結果が公表されていないが、結果を踏まえ環境整備に生かす努力が求められる。ただし、学生の評価についてはその妥当性についての検討が必要である一方、現在の人的・物的資源の有効活用を図る工夫が求められている。とくに、宮城大学の場合、物理的に大変恵まれた環境にあるにもかかわらず、その優位性を十分に生かしきっていないように思われる。 角山委員:S e-learningの成果。 橋本委員:A No.139,140は 評価となっているが、 評価にかなり近いのではないか。 花輪委員:S 図書の実質や、e-learning、ネットワークの整備に目標以上の進展を得たことは高く評価できる。 藤崎委員:A 仙台市中心部でのサテライト機能があると充実する。 Mウィリアムズ委員:A
S:4 A:3	

C	A
---	---

(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

14	イ 学習支援 No.144～154			11	11	100.0%	0.0%	A
----	-------------------	--	--	----	----	--------	------	---

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 学生に対しきめ細かな支援を行っていることは評価できる。 藤崎委員:A 環境なのか？資格取得等への支援なのか？ Mウィリアムズ委員:A
A:7	

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目				計	+の割合	の割合	仮評価		
15	□ 生活支援 No.155 ~ 159			4	1	5	100.0%	20.0%	A
16	八 就職支援 No.160 ~ 173			10	4	14	100.0%	28.6%	A
17	二 経済的支援 No.174				1	1	100.0%	100.0%	S
18	ホ 社会人・留学生への支援 No.175 ~ 177			3		3	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】 A A:6 B:1	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 震災後、ストレス反応調査を行い、ケア等を施していることは評価できる。 藤崎委員:B 震災後の支援は特に必要である。 Mウィリアムズ委員:A
【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A いずれの学科も高い就職率を実現しているが、今後は就職先の満足度の評価も必要と考える。 角山委員:A 172の入学時からフォローは大切な事と感じた。 橋本委員:A 花輪委員:A きめ細かい就職支援により、高い就職内定率を得ていることは評価できる。 藤崎委員:A 私立大学等との比較を行うべきである。 Mウィリアムズ委員:A
【評価】 S S:6 B:1	【委員意見】 猪股委員:S 関谷委員:S 角山委員:S 橋本委員:S 花輪委員:S 被災学生に対し、速やかに支援したことは好ましい対応であった。 藤崎委員:B 震災後の支援は特に必要である。 Mウィリアムズ委員:S
【評価】 A A:6 B:1	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 留学生に対し、日本文化を理解させようとする努力は評価できる。 藤崎委員:B 社会人入学者が少ない。 Mウィリアムズ委員:A
【特記事項に関する委員意見】 猪股委員: 昨今の厳しい就職状況の中、99,2%の就職率は素晴らしいと思います。 橋本委員: 長期にわたる就職活動をせずに希望する就職が可能となるよう、様々なアプローチで学生の就職支援体制を構築し、厳しい就職状況のなか近年最高の就職率を実現したことは高く評価できると思います。 花輪委員: 特記事項1,2,3,5に表れているように、大学にとって、研究と並んで、良い学生を集め、良い教育を行い、そして社会へと送り出すことが重要な使命である、との認識が行き届いていることは高く評価できる。	

(参考) 評定実績	
H21	H22
C	A

C	B
---	---

A	-
---	---

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	計			+の割合	の割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	(参考) 評定実績				
								H21	H22			
2 研究に関する目標を達成するための措置												
(1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するための措置												
19	イ 研究の方向性 No.178 ~ 182		4	1	5	100.0%	20.0%	A	【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 件数も重要だが、戦略性も必要。 橋本委員:A 花輪委員:A 震災により、計画通りいかなかったのはやむを得ない。一方で復興関連の研究を進めたのは好ましい。 藤崎委員:A 研究者によって方向性は変わるものだと思う。 Mウィリアムズ委員:A	C	A
20	ロ 研究水準の向上 No.183 ~ 186		4		4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 紀要の役割もあると思うが、紀要を廃止したことは一つの決断だと理解する。 藤崎委員:A 世界的な基準があれば参考にしたい。 Mウィリアムズ委員:A 「宮城大学紀要」の廃止は、ピア・レビューされたジャーナル紙への投稿の増加に働くので前向きな進展と考えられます。	A	A
21	ハ 研究成果の地域社会への還元 No.187 ~ 192		4	2	6	100.0%	33.3%	A	【評価】 A A:6 B:1	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 地域連携の促進や、研究成果の社会還元を推進していることは評価できる。 藤崎委員:B 成果を発表する場、機会が多いとは言えない。 Mウィリアムズ委員:A	A	S

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	計				+の割合	の割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	(参考) 評定実績			
									H21	H22		
(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置												
22	イ 研究の実施体制 No.193 ~ 196			4	4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 藤崎委員:A 花輪委員:A Mウィリアムズ委員:A	A	A	
23	ロ 研究費の配分 No.197 ~ 201			4	1	5	100.0%	20.0%		A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 科研費などの外部資金確保に向けて努力していることは評価できる。 藤崎委員:A 他大学との比較を継続して行ってほしい。 Mウィリアムズ委員:A 内部研究資金の分配や(外部資金獲得における)教員一人あたり1,000,000円の目標は、適切と思えます。研究資金提供の可能性はどのように全学部へ周知されていますか？研究資金の提供に特化したFDセッションはありますか？科研費以外の外部資金獲得手段をつくすように奨励されていますか？	C
24	ハ 研究者の配置 No.202 ~ 203			2	2	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 人事を書面審査のみでなく、研究のプレゼンテーションを課していることは評価できる。 藤崎委員:A 母数が少ない。 Mウィリアムズ委員:A	A		A
25	ニ 研究環境の整備			6	0	6	100.0%	0.0%		A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 研究時間の確保に向けた試みを始めたことは評価できる。 藤崎委員:A 整った環境の維持を期待する。 Mウィリアムズ委員:A 「宮城大学紀要」の廃止は、ピア・レビューされたジャーナル紙への投稿の増加に働くので前向きな進展と考えられます。しかし、論文が掲載されるための適切な「メンター/メンティ(指導者/被指導者)」関係は構築されていますか？(それぞれの教員に研究アドバイザーがいますか？) また、論文が投稿される前に宮城大学の教員に読まれるシステムは随所にありますか？	A
	(イ) 研究時間の確保 No.204 ~ 207			4	4							
	(ロ) 研究設備 No.208 ~ 209			2	2							

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目				計	+の割合	の割合	仮評価
26 水 研究活動の評価 No.210			1	1	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
--------------------	--

(参考) 評定実績	
H21	H22
A	A

[評価] A	[委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A どのような評価の改正が行われたのかは不明であるが、引き続き努力されたい。 藤崎委員:A 母数が少ない。 Mウィリアムズ委員:A 大学の全体的な研究プロフィールの改善は明確化されています。しかし、これとプロモーション(又は他の報酬)との関係が十分に明らかになっていないのでは？
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

27 ヘ 知的財産の創出 No.211~214			4	4	100.0%	0.0%	A
-------------------------	--	--	---	---	--------	------	---

[評価] A	[委員意見] 猪股委員:B 震災後で仕方ない事ではあると思うが、全学部の論文数が昨年度に比べ、全体的にみると数値が減ってしまい残念である。 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 藤崎委員:A Mウィリアムズ委員:A
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

A	A
---	---

[特記事項に関する委員意見] 橋本委員: 本学の研究を生かし、震災復興に貢献できたことは高く評価できると思います。 花輪委員: 震災復興関係の研究を学内経費を使って推進したことは評価できる。

第2 地域貢献等に関する目標を達成するためとるべき措置	0	1	22	17	40	97.5%	42.5%
-----------------------------	---	---	----	----	----	-------	-------

1 地域貢献に関する目標を達成するための措置								
28 (1) 県民の高等教育機関としての役割 No.215~222			6	2	8	100.0%	25.0%	A

[評価] A	[委員意見] 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 学生確保に向けた努力が見られ、好ましい。/ 地域に根差した授業科目があることは好ましい。 藤崎委員:A ある程度、果たしている。 Mウィリアムズ委員:A 県との優れた、相互に有益な関係が見られますが、生涯学習の機会をもっと作ることができたと思います。
--------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

A	A
---	---

29 (2) 地域社会への貢献 No.223~227			1	4	5	100.0%	80.0%	S
----------------------------	--	--	---	---	---	--------	-------	---

[評価] S	[委員意見] 猪股委員:S 関谷委員:S 角山委員:S 橋本委員:S 花輪委員:S 緊急雇用創出事業に協力したことは評価できる。 藤崎委員:A Mウィリアムズ委員:S
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

No.	評価項目	実績				計	+の割合	の割合	仮評価
		1	2	3	4				
30	(3) 産学官の連携 No.228 ~ 237		1	7	2	10	90.0%	20.0%	B
31	(4) 大学間の連携 No.238			1		1	100.0%	0.0%	A
32	2 国際交流等に関する目標を達成するための措置			7	9	16	100.0%	56.3%	S

(1) 国際交流を推進するための体制整備 No.239 ~ 242

2 2 4

(2) 海外大学等との連携 No.243 ~ 246

1 3 4

(3) 留学・留学生支援 No.247 ~ 254

4 4 8

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
<p>[評価] B</p> <p>A:3 B:4</p>	<p>[委員意見]</p> <p>猪股委員:B 関谷委員:A 角山委員:B 橋本委員:B 花輪委員:A 震災と言う特別な状況の中でも、多くの受託研究を締結するなど、活発な研究活動は評価できる。 藤崎委員:B 特に積極性は感じられない。 Mウィリアムズ委員:A</p>
<p>[評価] A</p> <p>A:7</p>	<p>[委員意見]</p> <p>猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 計画通り進展していると判断する。 藤崎委員:A Mウィリアムズ委員:A</p>
<p>[評価] S</p> <p>S:4 A:2 B:1</p>	<p>[委員意見]</p> <p>猪股委員:S 関谷委員:A グローバル化が進展する中で、宮城県国際化は相対的に遅れているように思われる。食産業学部及び事業構想学部の教育・研究は地域との結びつきが強い一方、地域の枠を超えた国際的な展開の可能性をもつ分野でもあるので、教育・研究の成果を外部に積極的に発信する必要がある。 角山委員:S 活発な活動でSに値する。 橋本委員:S 花輪委員:S 国際交流の推進、海外大学との連携に向けて多大な努力がはらわれていると判断する。成果も着々と上がっていると認める。 藤崎委員:B 他大学を参考にしたい。 Mウィリアムズ委員:A ベトナムやアーカンソーなどの最近の活動が見られますが、国際的な経験を獲得する学生(または教員)の割合がまだ低いと思われます。大学の国際的な活動が、全ての活動に完全に統合されているというより、コア・ミッションの外側に位置づけられているという印象を多少持っています。</p>
<p>[特記事項に関する委員意見]</p> <p>猪股委員: 英語のスピーチコンテストが盛況で、メディアを通してPR出来たことは有益だったと思います。</p> <p>橋本委員: 震災復興を機に、各種補助金・業務受託等を積極的に獲得し、地域に直接貢献できる研究活動が行われたことは高く評価できると思います。</p> <p>花輪委員: 地元との地域連携、一方で海外大学との連携、海外からの留学生の受け入れ、これらは矛盾するものではないが、それでも、どのような観点からの海外交流なのかを、どこかで説明しておく(記述しておく)といいのかもしれない。</p> <p>藤崎委員: 国際交流を促進するには受入体制や予算の拡大が必要ではないか?</p>	

(参考) 評定実績	
H21	H22
A	S

A	A
---	---

B	C
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目					計	+の割合	の割合	仮評価
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとすべき措置	0	0	30	2	32	100.0%	6.3%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見

(参考) 評定実績	
H21	H22

1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置

33	(1) 理事長を中心とする運営体制の構築 No.255 ~ 262			8		8	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 事務職員全員が参加するSDを行っていることは評価できる。 藤崎委員:A Mウィリアムズ委員:A

A	B
---	---

34	(2) 戦略的な予算等の配分 No.263			1		1	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 藤崎委員:B 戦略的な、とはどういう意味か？将来ビジョンか？ Mウィリアムズ委員:A

A	A
---	---

35	(3) 学外の有識者等の登用 No.264 ~ 265			2		2	100.0%	0.0%	A
----	-----------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 理事・副学長の学外者からの起用は順調に進展していると判断する。 藤崎委員:A ある程度行っていると認識している。 Mウィリアムズ委員:A

A	A
---	---

36	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置 No.266 ~ 267			2		2	100.0%	0.0%	A
----	-------------------------------------------	--	--	---	--	---	--------	------	---

[評価]	[委員意見]
A	猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 藤崎委員:B 予算配分が重要ではないか？ Mウィリアムズ委員:A

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目	計				+の割合	の割合	仮評価	法人の自己評価に対する委員評価・意見	(参考) 評定実績		
									H21	H22	
3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置											
37 (1) 人事制度 No.268 ~ 276			7	2	9	100.0%	22.2%	A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A プロパー職員が順調に増加していることは評価できる。 藤崎委員:A 業績に応じた明確かつ公平な処遇が条件。 Mウィリアムズ委員:A テニユアから離れた任期制への移行は、歓迎されることですが、それ自体に問題がないとは言えません。例えば、宮城大学はどのようにして業績の優れた教員が雇用保障や常勤の地位の不足を心配しなくても良いことを保証するでしょうか。業績の優れた教員の保持は、宮城大学の将来の成功の鍵となるので、この問題に取り組む必要があります。	B	C
38 (2) 評価制度 No.277 ~ 280			4		4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 藤崎委員:A 評価基準、方法が明確かつ公平であることが大切。 Mウィリアムズ委員:A	A	C
4 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置											
39 (1) 事務組織の見直し No.281 ~ 282			2		2	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 藤崎委員:B 永遠の課題である。環境変化に応じて常に改善したい。 Mウィリアムズ委員:A	A	A
40 (2) 事務の効率化 No.283 ~ 286			4		4	100.0%	0.0%	A	【評価】 A 【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 業務の効率化やペーパーレス化に向けた努力は評価できる。 藤崎委員:B 永遠の課題である。環境変化に応じて常に改善したい。 Mウィリアムズ委員:A	A	A

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目					計	+の割合	の割合	仮評価
------	--	--	--	--	---	------	-----	-----

法人の自己評価に対する委員評価・意見
【特記事項に関する委員意見】 花輪委員： 事務職員全員が参加するSDの開催は評価できる。/プロパー職員が順調に増加していることは評価できる。

(参考) 評定実績
H21 H22

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	19	0	19	100.0%	0.0%
-------------------------------	---	---	----	---	----	--------	------

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

41	(1) 外部資金の獲得 No.287 ~ 291			5		5	100.0%	0.0%	A
42	(2) 自己収入の確保 No.292 ~ 295			4		4	100.0%	0.0%	A
43	(3) 授業料等の適切な設定 No.296 ~ 299			4		4	100.0%	0.0%	A
44	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置 No.300 ~ 303			4		4	100.0%	0.0%	A

【評価】 A	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 科研費獲得のための研修を行っていることは評価できる。獲得目標も達成している。 藤崎委員:A 公立大学として資金調達には限界があると思う。 Mウィリアムズ委員:A 内部研究資金の分配や(外部資金獲得における)教員一人あたり1,000,000円の目標は、適切と思えます。
【評価】 A	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 順調に進展していると判断する。 藤崎委員:A 公立大学として資金調達には限界があると思う。 Mウィリアムズ委員:A
【評価】 A	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 藤崎委員:A 継続してほしい。 Mウィリアムズ委員:A 県内入学者と県外入学者との入学金の差が大きすぎるのではないかと。一定の差を設けることはやむを得ないと思うが、この差が県外からの入学者を排除する方向に作用している面があるのではないかと。
【評価】 A	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 15%の電力削減を達成したことは評価できる。 藤崎委員:A 継続してほしい。 Mウィリアムズ委員:A

A	C
---	---

C	C
---	---

A	A
---	---

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目				計	+の割合	の割合	仮評価
45 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置 No.304～305			2	2	100.0%	0.0%	A

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 順調に進展していると判断する。 藤崎委員:A 外部の意見を参考にしたい。 Mウィリアムズ委員:A
【特記事項に関する委員意見】 猪股委員: 外部からの研究資金を調達できたこと、内部的に節電等で経費節減できたことは、財務内容の改善に貢献できたと思う。 花輪委員: 科研費獲得者が着実に増加していること、平均獲得額も目標を達成していることは、高く評価できる。	

(参考) 評定実績	
H21	H22
A	A

評価項目				計	+の割合	の割合	仮評価
46 第5 教育及び研究並びに組織及び運営の状況に係る自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置	0	0	12	0	12	100.0%	0.0%
1 自己点検・評価の充実に係る目標を達成するための措置 No.306～309			4	4	100.0%	0.0%	A

【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 震災の影響もあるが、概ね目標を達成したと判断する。 藤崎委員:A Mウィリアムズ委員:A
-------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

A	B
---	---

47 2 情報公開の推進等に関する目標を達成するための措置 No.310～317			8	8	100.0%	0.0%	A
------------------------------------------	--	--	---	---	--------	------	---

【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 広報委員会を立ち上げ、専門の職員を配置したことは評価できる。 藤崎委員:A Mウィリアムズ委員:A
【特記事項に関する委員意見】 花輪委員: 広報委員会を立ち上げ、専門の職員を配置したことは評価できる。	

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目					計	+の割合	の割合	仮評価
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	0	0	10	1	11	100.0%	9.1%	
48 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置 No.318～321			3	1	4	100.0%	25.0%	A
49 2 安全管理等に関する目標を達成するための措置 No.322～325			4		4	100.0%	0.0%	A
50 3 人権の尊重に関する目標を達成するための措置 No.326～328			3		3	100.0%	0.0%	A
合計	0	1	275	51	327	99.7%	15.6%	

法人の自己評価に対する委員評価・意見	
【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 施設有効活用委員会を立ち上げ、恒常的に検討していることは評価できる。 藤崎委員:A 教授・学生の立場で視点が変わると思う。 Mウィリアムズ委員:A
【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A 順調に進展していると判断する。 藤崎委員:A 今後も継続的な取り組みを期待する。 Mウィリアムズ委員:A
【評価】 A A:7	【委員意見】 猪股委員:A 関谷委員:A 角山委員:A 橋本委員:A 花輪委員:A セクハラ等の事案が起こったことは残念である。適切に対応されたい。 藤崎委員:A 質問が抽象的で評価しづらい。 Mウィリアムズ委員:A
【特記事項に関する委員意見】 花輪委員: 施設有効活用委員会を立ち上げ、恒常的に検討していることは評価できる。	

(参考) 評定実績	
H21	H22

A	A
---	---

A	C
---	---

A	A
---	---

平成23年度業務実績報告(自己評価)の評定一覧

評価項目					計	+ の割合	の割合	仮評価
------	--	--	--	--	---	-------	-----	-----

合計(327) + 評定不能のため母数に含めなかった項目(1) = 328項目

仮評価	S=	4
	A=	45
	B=	1
	C=	0
	D=	0
S~D合計		50

委員評価	S=	4
	A=	45
	B=	1
	C=	0
	D=	0
S~D合計		50

法人の自己評価に対する委員評価・意見

(参考) 評定実績	
H21	H22

【委員意見】(全体評価)

猪股委員:
震災後の大変な状況下において、ほぼ例年通りの運営を行い、また震災復興支援においては、多くの学生がボランティア活動を行い地域に貢献し、また、震災関連研究を推進し、積極的な外部資金調達を可能にした功績は大きいと思う。

関谷委員:
全体としては中期目標・計画を基に年度計画に従って個々の分野において着実に成果をあげている点は大いに評価できるが、それによって大学が目指している目標にどれだけ近づくことが出来たか、という視点からの総合的評価も必要であるように思われる。
近年、大学の地域貢献が強く求められ、個別・具体的な分野での成果が期待されているが、大学教育の基本はいうまでもなくトータルな意味での人間教育にあり、それをとおしての社会・地域貢献であるとするれば、最近の傾向はむしろ大学の本来の役割を阻害する側面をもっているように思われる。つまり、地域貢献を強調すればするほど、短期的かつ具体的成果が求められ、それが評価の対象となり、人間教育としての側面が蔑ろにされる傾向が顕著になりつつある。
宮城大学の3つの学部教育は、確かに実学的な側面が強く、具体的・直接的な地域貢献が期待される分野であることは否めないが、そうした要求に応えようとするればするほど、宮城(地域)の大学という位置づけが強化されることになる。
もちろん、学校運営の方針としてそうした役割や位置づけを否定することはできないが、それは高等教育機関の役割としては一部を構成するにすぎないとすれば、21世紀の大学に求められている役割のなかで地域貢献をどう位置づけていくのが、これからの課題であろう。

橋本委員:
震災復興をてこに、様々な機会をとらえ、大学の力を増進することができたのは素晴らしいと思います。研究活動の成果を地域に還元し、そのなかで更に研究が進むという、設立のミッションが具現された年度だったと思われれます。
復興事業もまだまだこれからの部分も多いと思いますが、更に研究(教育)活動と地域貢献の循環が進むことを期待しています。また、大卒者の就職が大きな社会問題となっているなかで、教育活動のなかに就職活動を取り込むアプローチを探り、結果を出されたことも、高く評価できると思います。

藤崎委員:
地域との関わり方の面で、大学側が思っているほど地域貢献が進んでいるとは思えない。一方で、学生の評価は高い。このギャップを意識し、今後大学が進むべき方向性を修正していく努力がほしい。

花輪委員:
設立3年目を迎えた若い大学であるが、目標に向かって計画通り、あるいはそれ以上に進んでいると判断する。
前身校により3学部体制であるが、一体としての運営を行おうとの努力が見られ、大変好ましい。プロパーの職員も増加し、3部局間での交流も始まるうとしていることは、今後が大変期待できることである。さらに「宮城大学」としての一体感の醸成、アイデンティティの確立をお願いしたい。
海外との交流について、どのような考え方で交流を進めるのか、その戦略を明示されたいのではなかろうか。

S=	1	2
A=	39	37
B=	3	3
C=	7	7
D=	0	0
合計	50	49